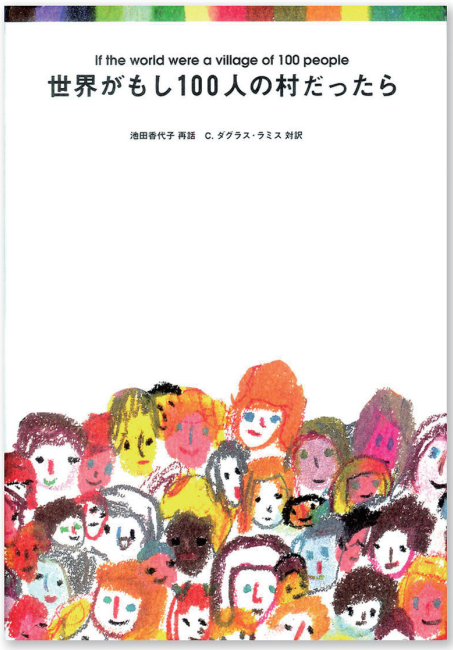
広がる格差



2000 年頃に話題になった
『世界がもし 100 人の村だったら』の本

世界には多様な人々がいて、貧富の格差があることを知らしめました。

63 億人の地球を 100 人の村に縮めるとどうなるのでしょう。ではじまり
100 人のうち 52 人が女性 48 人が男性です
30 人が子どもで 70 人が大人です
そのうち 7 人がお年寄りです
90 人が異性愛者で 10 人が同性愛者です
と、続く。

すべての富のうち
6 人が 59%をもっていて
みんなアメリカ合衆国の人です
74 人が 39%を
20 人がたったの 2 %を分けあっています
と。

日本のような単一民族国家に住んでいるとなかなか気づかない現実でした。

****

近頃「統計」が問題になっている。数字はウソをつかないが、嘘つきが数字を並べる。概して、示された数値データは捏造とまではいかずとも、自分たちに都合のいい数字が並ぶ。そこは割り引いて考える必要がある。

出回っている統計データによると現在 2018 年地球の人口は 75 億人ということだが、正確なものではない。ほぼ全国民が読み書きできる日本でさえ無戸籍者を多く抱えているのである。中国の砂漠やインドのジャングル地帯の人口は推測値かもしれない。

それでも、そのデータ（IMF 値）に基づいて一応検証する。

『100 人の村』が話題になった 2000 年、世界人口は 59 億 7 千万人。

1 位	中国	12 億 7 千万人
2 位	インド	10 億 3 千万人
3 位	アメリカ	2 億 8 千万人

この年の全 GDP は 33 兆 8 千億ﾄﾞﾙ。
第 1 位のアメリカが 10 兆 3 千億ﾄﾞﾙで、世界の GDP の 30%。
（蓄積された富をどう数えたのか？）
『100 人の村』では富の 59%を 6 人のアメリカ人が占有しているというが、
アメリカ人口 2 億 8 千万は世界人口の 4.7 %で、100 人の村にアメリカ人は、繰り上げても 5 人しかいない。

してみると同性愛者 10%はかなり怪しい。突っ込みを入れればきりがないが、このことで『100 人の村』の果たした役割や価値が否定されるものではない。

****

問題は富める国アメリカの中にも、みな中くらい以上と思っていた日本国内にも、著しい格差があることだ。

■地域格差

2016 年内閣府県民所得ランキングによると、第 1 位は断トツで東京都の一人当たり 443 万円。全国平均が 306 万円だ。

長崎県は 32 位で 239 万円。全国を 100 と置けば長崎県は 80。長崎県内でも地域格差は大きく、県平均を 100 とすれば島原市は 88 程度なので全国を 100 とすれば島原は 70 だ。